

# こども女性包括支援センターhalu(はる)「ここはる」を訪ねて



大野城市内の住宅地の中を進むと、塀もなくオープンな 3 階建ての真新しいマンションのような建物があります。こども女性包括支援センター(halu)です。切れ目ない支援ができるよう、こども・若者支援部門、若者女性支援室、妊産婦支援部門、地域支援連携室など、個別的・継続的に支援体制をとっています。こどもと女性であればどんな相談でも対応したいと、困難な課題を抱えるこどもと女性への総合支援をする先進的な全国初の施設です。



## ○地域で生活を送れるよう「伴走型」で支援する

妊娠の相談から子育て期まで長期にわたり寄り添う「伴走型」の支援を行っています。24時間365日対応しており、国の基準の 2 倍の専門職員を配置しています。X(エックス)や LINE も取り入れた相談支援など、若者が利用しやすい配慮もなされています。

生活の基盤は地域です。困難な課題を抱える女性たちが地域で生活を送れるように支援するために、母子が生活する施設は塀がなく、施設内の一部は地域の子どもたちが利用できるようになっていたり、こども食堂を開催したりと地域にも開放されています。

学校や家庭以外の子どもの居場所も別棟に開設される予定です。

思いがけない妊娠に悩んでいる人へ  
匿名OK、無料なのでまずは相談してね




公式 X



公式ウェブサイト

## ○必要な予算を確保する

“子どもの権利条約”の批准や“困難な課題を抱える女性支援法”が施行され、ニーズはあるはずなのに利用できない人がいます。その背景には市町村の予算措置が影響していることが分かりました。

地域ごとに代理人を選出している私たちだからこそ、こうした支援の必要性を行政に伝え、必要なところに十分な予算が付けられるように働きかけていきます。

## ○困難さの背景「人に頼っていいんだよ」

思いがけない妊娠や性被害、支援につながる母子の背景には、親からの虐待や貧困等、そこにいたるまでには複雑な問題が影響していると言います。妊娠したことをきっかけに支援につながったけれども、その前から何らかの関りが必要だった母親がほとんどだそうです。

実家のような安心できる環境を提供し、経験できなかったことをここで経験してもらい、「頼っても良いという意識づけになればいい」「負の連鎖を解消したい」と、思いのこもった言葉を、スタッフの方々が語ってくださいました。



## ○施設名「ここはる」に込めたスタッフの思い

「ここはるに来るまでに、たくさん大変なことがあったと思います。今からは、私たちが出産に向けてサポートしていきます。不安なこと、心配なことなど何でも話してください。一緒に考えて、あなたと赤ちゃんにとってここからはる(スタート)が来ますように…」



敷地内の大きな桜の木が、「ここはる」を見守ってくれていました。

那珂川市議会議員 稲生まりこ



国政を  
見る!

## わたしたちの暮らしを守る 「地方自治法」が改正された

今年 6 月 19 日に改正地方自治法が成立した。同日成立した改正政治資金規正法に注目が集まった。「改正地方自治法」は注目は集まらなかったが、地方自治を揺るがす大きな改正だ。

大規模災害や感染症大流行などの非常事態に国が地方に対応を指示できるようになった。国の指示権を拡大することで、個別法でカバーしきれない想定外の問題を解決することを目的としている。しかし、非常事態の定義はされていない。非常事態を国が判断し、指示権を行使するという。指示権は法的拘束力を伴って地方を従わせる強い権限を持つ。

戦時下では、集権化により戦争へ総動員体制を築いた。戦後憲法の制定により都道府県知事を住民が直接選挙で選ぶ公選制が導入され、2000 年の地方分権改革では法律の根拠なしに国は地方に関与できなくなり、必要最小限の関与を原則とすることが「地方自治法」に明記された。

「地方分権への逆行」と言われる今回の改正。私たちの暮らしは地域に暮らす私たちが一番よく知っている。そしてその暮らしを守るのが地方自治体である。

ふくおか市民政治ネットワークは、「大切なことは自分たちで決める」ために、地方自治体に生活者である私たちの仲間を代理人(議員)として送り出し続けてきた。市民の感覚で「おかしいことはおかしい」と言うことが大切だと思うからである。国の政治により、地方分権を危うくし、住民自治を蔑ろにすることがあってはならない。

「大切なことは、自分たちで決める」住民自治を守っていききたい。

非常事態の内容を把握し、国の言いなりにならない自治体であるために注視続ける。

## 2024 年市民運動助成金 決定しました!

市民運動助成金は、「市民の力で社会を変えていこう」とする団体を応援するために 2009 年にスタートしました。

2024 年は 5 団体の申請があり、以下のとおり助成を決定しました。

カメレオンのしっぽ	30 万円
子ども食堂など食を通じた居場所づくり	
トーキョーコーヒー	24 万円
不登校の保護者の居場所拠点 中高生の居場所づくり	
発達支援 Little Light	30 万円
発達障がいの療育についての学びの場 児童発達支援事業所への準備	
地球交遊クラブ	30 万円
みんなの寺子屋、オンライン授業事業	
宗像地区成年後見研究会	30 万円
市民成年後見人の育成事業	

